



震度の種類を知っておこう

気象庁では、震度階級とそれに対応した被害の状況を整理しています。震度5強以上の地震になると、落下物などによる事故の可能性が高まります。震度により、どのような現象の被害が発生するのかを知っておきましょう。(気象庁震度階級関連解説表より)

震度 0 ◎人は揺れを感じない。



震度 1 ◎屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。

震度 2 ◎屋内にいる人の多くが揺れを感じる。
◎電灯などのつり下げ物がわずかに揺れる。

震度 3 ◎屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。
◎棚にある食器類が音を立てることがある。

震度 4 ◎かなりの恐怖感がある。
◎一部の人は、身の安全をを図ろうとする。
◎つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。
◎座りの悪い置物が倒れることがある。
◎電線が大きく揺れ、歩いている人も揺れを感じる。
◎自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。

震度 5弱 ◎多くの人が、身の安全をを図ろうとする。
◎一部の人は、行動に支障を感じる。
◎座りの悪い置物が倒れ、家具が移動することがある。
◎窓ガラスが割れることがある。
◎電柱が揺れるのがわかる。
◎補強されていないブロック塀が崩れることがある。
◎耐震性の低い住宅では、壁や柱が破損するものがある。



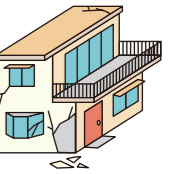
震度 5強

◎非常な恐怖を感じる。
◎多くの人が、行動に支障を感じる。
◎棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。
◎タンスなど重い家具が倒れることがある。
◎補強されていないブロック塀の多くが崩れる。
◎耐震性の低い住宅では、壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。



震度 6弱

◎立っていることが困難になる。
◎固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。
◎開かなくなるドアが多い。
◎かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
◎耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。
◎耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。



震度 6強

◎立っていることができず、はわないと動くことができない。
◎固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。
◎戸が外れて飛ぶことがある。
◎壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
◎補強されていないブロック塀が崩れる。
◎耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。
◎耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。



震度 7

◎揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。
◎ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。
◎壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
◎補強されているブロック塀も破損するものがある。
◎耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく破壊するものがある。

